

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

	ヒトゲノム編集細胞を使った、化学物質の薬理作用・有害性を解析するシステムの構築
研究代表者	武田 俊一（京都大学・大学院医学研究科・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、ゲノム編集技術により作製した多数のヒト変異細胞株を用い数万種類の化学物質の遺伝毒性リスクを評価し、さらにコンピューターによるリスク予測手法を構築しようとする意欲的な取組である。メカニズム上の新知見、低用量域の遺伝毒性に関する多数のデータを得ることができると期待される。さらに米国との共同研究により国際的な波及効果も期待できる。研究の進展に伴って生ずるビッグデータの処理と予測モデルの構築に更なる工夫が望まれるが、応募者のこれまでの実績から今後の対応が可能と考え、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>